

	牧師 山本護	司式 露木淳司	奏楽 山本恵美	※讃美は二番まで歌います
前 奏	黙想		祈 禱	
頌 栄	544 あまつみたみも		讃 美 歌	96 エサイの根より
祈 禱			献 金	
信仰告白	使徒信条 566		讃 詠	547 いまささぐるそなえものを
聖 書	詩編 27:11~14		主の祈り	564
	使徒言行録 7:55~56		讃 詠	546 聖なるかな、せいなるかな
讃 美 歌	353 いずみとあふるる		祝 禱	
説 教	『降誕の主を待つ教会』		後 奏	
	長崎 哲夫 牧師			

聖書は、主イエス・キリストの福音の輝きによる救いの書である。一方、主が御傍に招かれ、福音を信じる者にされた人々の信仰の姿がありありと著されている。例えば、主に名指しされ、使徒(マコ3:1)となった12弟子はどうか。彼らはゴルゴタで主が強引に十字架に架けられたのに恐れをなし、エルサレムからガリラヤに遁走し、何もなかったかのような顔で魚を漁っていた(ヨハ21:1)。だが、果たしてそれは彼らの本心だったのか。あの主と共にあった豊穰な日々は何であったのか。人が愛しき者と出会った意味を本当に味わうのは、その人とまみえることが出来なくなってからのことではなかったか。

使徒言行録は、ギリシャ語を使うユダヤ人とヘブル語を使うユダヤ人との間に日々の分配に差別があったエルサレム教会は、内紛解決の会議を開き、執事選挙の実施をして、信仰と聖霊に満ちた7名を選出した(行6:1)。其処で筆頭執事となったステファノはその世話役の任を超えて、「解放された奴隷の会堂」や最高法院の議員らと激論し(6:8-15)、イエス・キリストを前面に強く押し出し、反対派や当局者ら多くの反感を買い、遂に石打の刑をもって都の外に引きずり出された。

其処にサウロもいて、ステファノ殺害に賛成していた(8:1)。この一件は、彼がダマスコ宛大祭司の添書を得て、主の弟子らの逮捕連行のため息弾ませたことと共に主への「回心」の大きな動機となる。その日、エルサレム教会に対して大迫害が起こり、使徒たちを置いてユダヤとサマリア地方に散って行き、「散って行った人々は、福音を告げ知らせながら巡り歩いた」(8:4)とある。

行伝に於いて、ペトロは最後の説教をエルサレム会議の席上行っている。「わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです」(10:44,15:7)と会議の基調とした。これを受けたパウロとバルナバは、彼らの第一伝道旅行(13:1-14:28)の途上、神が異邦人の間で行われたあらゆる許しと不思議な業を報告した(15:12)。するとガリラヤでは母マリアに付いて兄イエスを批判していた弟ヤコブが教会長老として、前者二件を受け、「神に立ち返る異邦人を悩ませてはいけません」を宣言して、誰にも洗礼の無制限有効を説き、世界伝道の足掛かりとした。

予てより、主の教会の発展は、どの時代でも「殉教」に裏打ちされ、反って教会と信徒の結束を強固足らしめ、教会は充実発展して来たと言って来た。新約聖書中、主の十字架以降最初の殉教者をエルサレム教会が選出したステファノとし、第二の殉教者は12弟子中ガリラヤの漁師ゼベダイの長子ヤコブである(12:1)。ヤコブはAD41-44にユダヤ王として君臨したヘロデ王の孫ヘロデ・アグリッパが苦しめようとして手を伸ばし、洗礼者ヨハネのように(マコ6:17)剣による斬首だった。この時、天使に導かれた同牢のペトロはヨハネ・マルコのと云うよりは母マリアの「家の教会」に逃げ込み、「このことを(主の兄弟)ヤコブと兄弟たちに伝えよ」(12:17)と言ったきり、行く先不明となった。伝え聞くところによれば、AD64ローマで皇帝ネロはペトロとパウロを前後して処刑したと言う。

(長崎哲夫牧師の説教要約)

今日からクリスマスを待ち望むアドベント(待降節)に入ります。またコロナ状況が好転したので、本日より礼拝を「10:30~11:45、1回の礼拝」という従来の形に戻します。本日の礼拝説教は長崎哲夫牧師にお願いしました。12/5礼拝後に役員会。山本牧師の動き:11/29午前も午後も甲府刑務所。

礼拝堂・集会所の住所: 408-0012 山梨県北杜市高根町箕輪 2265-3

連絡・問い合わせは牧師へ: 408-0205 北杜市明野町浅尾新田 1324 TEL 0551-25-4008

メール komechan.olive@orange.zero.jp HPは「日本基督教団八ヶ岳伝道所」で検索して下さい。